

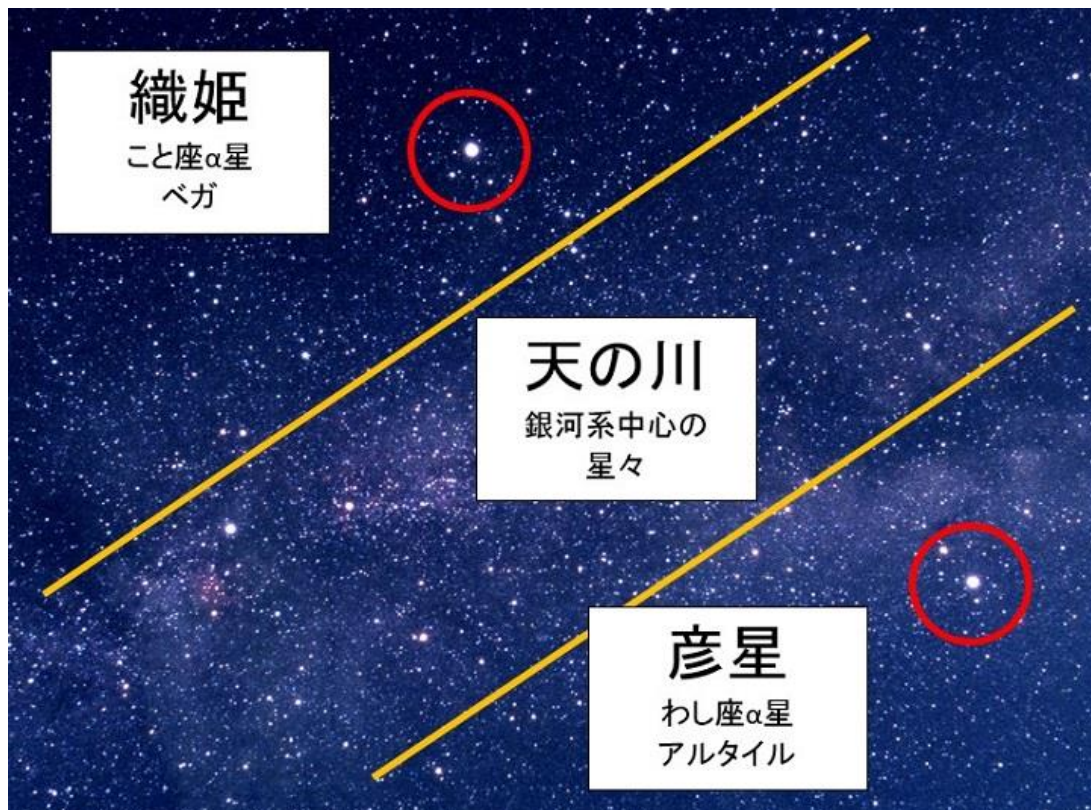
感性を育む和学講座第18回

七夕の真実

七夕の願い事

七月七日は七夕(たなばた・しちせき)の節供です。
七夕を「しちせき」と読むのはわかりますが、なぜ「たなばた」と言うのでしょうか。

七月七日、七夕の節供も古代中国から入ってきた慣習と、古来より日本にあった慣習が混ざり合わせています。
まず、古代中国の「星姫伝説」からご紹介します。



天の川の西岸に美しい、機織りの名手である天帝の娘、織女(織姫)が住んでいました。

一方、東岸には、とてもよく働く牛使いの牽牛(彦星)が住んでおり、その働きぶりを見て、天帝は二人を結婚させました。織姫と彦星は一緒に生活するようになると、とても仲睦まじい夫婦になりました。しかし、毎日一緒に過ごして、それぞれの仕事をしなくなったのです。天帝はお怒りになり、二人を天の川の両岸に離しました。すると、今度は毎日泣いてばかりで、やはり仕事は手に着

きません。仕方なく、天帝は働くことを条件に、年に一度二人の逢瀬を許したのです。

今では、この伝説は、愛し合う二人を天帝が引き離し、年に一度しか会えない、という単なる悲恋物語となっているようです。**なぜ引き離されたのか**。その大事な箇所が伝わっていません。

この七夕の元になった儀礼は六世紀の「荊楚歳時記(けいそさいじき)」に記載されている「**乞巧奠(きこうでん)**」。巧みになることを乞う(願う)儀式というわけです。

七月七日の夜、女性たちが美しい糸を七本の針に通して、織姫にちなんで裁縫が上達するのを願ったとされている儀礼です。なので、本来短冊に書く願い事は何でも良いというものではないのです。**手先を使う、技術的なことが巧みになる**ことに限られるのです。



日本では古代中国から入ってきた七夕とは違う、タナバタという独自の概念があったと考えられています。

タナバタを漢字で書くと「**棚機**」となります。水辺に張り出した「棚」の上で神聖な衣を機織りする女性がいたと考えられています。



神聖な衣とは神様が纏う衣です。この後の大事な儀礼のために**神様が纏う布**を織っていました。

さて、その大事な儀礼とは？

それは「**お盆**」です。

お盆の時期は、関西では 8 月 15 日ですが、関東では、現代でも 7 月 15 日。

7 月 15 日と考えると七夕とお盆が関係あるのが理解しやすいのではないのでしょうか。

旧暦では七夕から一週間後にお盆はやってきます。

仏教的要素が強いのですが、仏教伝来以前から祖霊信仰の慣習があり、祖霊神を迎える行事がお盆でした。七夕はお盆の準備をする日でもありました。

6 月末の「夏越の祓い」から一週間後、七夕の節供で禊を行い、穢れを祓い祖霊神である神を迎える行事がお盆です。

他にも、七夕にちなんだ行事はいろいろあります。

「**相撲**」もその一つでした。



奈良・平安時代にかけて行われた宮中の年中行事に相撲節会(すまひのせちえ)があります。宮中での相撲の最古の記録は、垂仁天皇 7 年(紀元前 23 年)7 月に野見宿祢(のみのすくね)と当麻蹴速(たいまのけはや)がとった相撲であります。

宮中では度々天覧相撲が開催されております。7 月には七夕の歌会が行われていますので、相撲節会も当初はそれに合わせて開催されていたのです。相撲は紀元前から続いている**神事の一つ**です。

七夕の歌会では、サトイモの葉の露で墨をすると字が上達すると云われており、7枚の梶の葉に歌を書いてたむけました



現代でも、短冊に願い事を書いて笹の葉に飾ります。この風習は、夏越の祓いに設置された茅の輪の両脇の笹竹に因んで江戸時代から始まった日本独特の風習です。

短冊などで飾られた笹竹は7月6日に飾られ、7月7日の未明に海に流されるのが一般的な風習でした。七夕流しは地域によっては、今でも続けられています。



やまと言葉神話国学世界観

脳による言語の処理様式

日本人は独特の言語処理の働きを持つ

母音、子音、感情音も動物の鳴き声、小川のせせらぎ、風のそよぐ音など全て
同じ側の脳(左脳、言語脳)で処理をしている→最も原始的な言語処理様式

日本語を話すことによって形成される(※角田忠信著書『右脳と左脳』)

西欧人は言語、子音、計算は左脳。母音、動物の鳴き声、小川のせせらぎなど
右脳優位。

母音がベースの日本語

子音も発音上 母音で終わる。

ア行

口の中で障害や摩擦を受けないで発音される音

子音のベースとなる。

原点としての意味→正統 おおらかさ 純朴 などの意味がある。

ア…「アイウエオ」「アカサタナハマヤラフ」の最初の音

やまと言葉の「祖音」

人間が生まれて最初に出す音

赤ちゃんは「おぎゃあ」と聞こえるが「あー」「あー」と泣いている

開ける、明るい、などの意味がある

イ…調音点(呼気をどこで狭めるかを示す)が前にある、口を横に強く引く

ことから、躍動する生命、前向きな活動、積極性を表す。

「息」「命(いのち)」「生きる」など

ウ…口を閉じて発音する

口の開きかたでは「アイウエオ」ではなく「アエイオウ」の順になる

動物、犬の唸り声も「ウ」の音。内なる力を蓄える時に出すべき音

怪我などをしたの「うー」といううめき声は、体の内なる自然治癒力を
働かせるために出す。

うなずく、うつむく、うめくなど。

エ…音声学上、他の母音から等距離(ニュートラル)にある。

分岐点、分かれて伸びていく様子。

枝、江。

オ…口の奥で、大きく音を包み込むように発音。

重厚で偉大なもの、重要なものを表す。奥、大きい、重い。